

講義名	中国語資格試験準備 B【GSP生用】			授業形態	
担当教員	蘭 梅	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

この科目はGSPクラスの中国語A/Bを習得した者を対象とします。

この科目の内容は、中国語の「読む、書く、聞く、話す」の中の「読む、書く」に重点を置き、中国語の読解と作文能力を伸ばしていくことをメインとします。

この授業では、中国語のHSK（中国語レベル測定試験）3級レベル以上の単語、フレーズの意味を確認しながら、HSKの読解問題を解いていきます。また、学習した文法の知識を使って作文のトレーニングをします。

この講義を受講することにより、中級中国語以上の長文の内容を理解することができるのと同時に、接続詞を使って作文ができるようになります。

この講義の目標としては、HSK3級レベル以上の内容を理解でき、一定の難易度がある作文もできることです。

到達目標

HSK 3 級に合格する目標を目指します。

4.技能に関する到達目標

聞く：平易な日常会話の内容を聞いて分かり、ある程度の長文の概要を聞いて理解できるようになる。
 話す：自己紹介ができ、短い文の質問と答えができるようになる。
 読む：400字以内の平易な内容の中国語を理解することができるようになる。
 書く：基本文型を応用して、少し難易度のある作文ができるようになる。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生には、別途個別に対応します。

提出課題

毎回の授業では、トレーニングの状況を確認するため、トレーニングのプリントの提出をしてもらい、次回にフィードバックを行います。また、毎週宿題のプリントも配布します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出した課題については、解説しながら受講者の回答の講評を行います。その後受講者に自分の結果について確認をさせます。最後に共通な問題点について重点的に復習をします。

評価の基準

本講義の評価基準は毎回の講義の受講態度と提出物、小テスト及び中間テストと期末試験の成績により総合的に評価をすることを基準とします。

具体的な割合は：
 平常点（授業中の受講態度、課題の提出、小テスト）3 0 %
 中間テスト3 0 %、期末テスト4 0 %

以上の記載については初回の講義の際に、教室で詳しい説明を行います。

履修にあたっての注意・助言他

HSK試験3級以上を目指すには、授業外での努力が欠かせないため、毎回の宿題としての課題を真剣に取り組むことが大切です。新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの変更が生じる可能性があります。

教科書

.教科書を使用しない。

参考図書

.なし。

その他

HSK（中国語能力試験）問題の過去問題

授業計画

1. 実力測定 & HSK（中国語レベル試験）の説明
2. 文法項目・筆記、リスニングトレーニング
3. 文法項目・筆記、リスニングトレーニング
4. 模擬試験による実力測定・解説
5. 文法項目・筆記、リスニングトレーニング
6. 文法項目・筆記、リスニングトレーニング
7. 模擬試験による実力測定・解説
8. 本講義の中間まとめ&テスト
9. 文法項目・筆記、リスニングトレーニング
10. 文法項目・筆記、リスニングトレーニング
11. 模擬試験による実力測定・解説
12. 文法項目・筆記、リスニングトレーニング
13. 文法項目・筆記、リスニングトレーニング
14. 文法項目・筆記、リスニングトレーニング
15. 模擬試験による実力測定・解説

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/>	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/>	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/>	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業の後にプリントの宿題のほか、 Moodleにアップした音声ファイルを聞くことも必要です。また、HSK試験に必要な単語及びフレーズの小テストを順次行っていきますので、そのための勉強時間も確保しなければなりません。

毎日の学習時間は1時間以上が必要です。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」素質・能力を育み、 法学部生に求められる「各界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成業の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

本講義では基本的にICT活用をし、グループ学習の形式で授業を進めていきます。
 教室内備えているプロジェクターを使用し、音声をiPadとコードレススピーカーを使用します。
 文法説明や課題の答え合わせなどについてはすべてプロジェクターで行います。
 また、Quizlet、Kahootもプロジェクターを利用します。

実務経験の有無及び活用

備考

受講者の習得状況に応じて授業の進度を調整します。